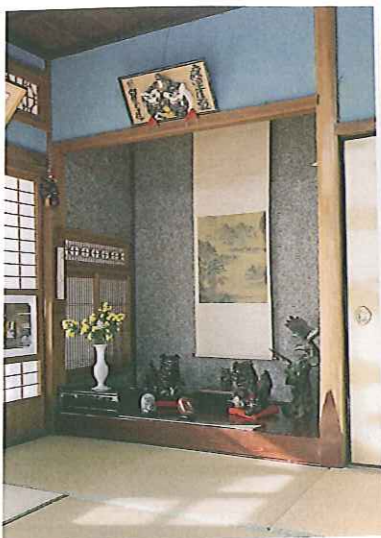


# 4年目を迎えた「定年就農」 妻の故郷で80歳まで続けたい



はさんご夫妻。柱や天井など、すべてに築60年の重みが漂う客間にて。



この間に掛け軸に雪見障子。趣のある日本家  
のよさが感じられる。



玄関に立つお二人。農家らしい堅固さがよくわ  
かる。

二間続きの広い客間。普段は傷まないように  
畳を上げてある。



Iさんご夫妻は、若狭湾に近い福井県三方上中郡若狭町で農業を営んでいます。お二人とも東京の会社に勤め、埼玉県久喜市にお住まいでしたが、4年前に移住してきました。  
ご主人は、50歳くらいから将来は農家である奥さまの実家で農業することをイメージしていましたが、いろいろな事情があつて決断しました。

定年後1年間は、埼玉の農業大学校に通って基本的な知識を身につけ、62歳で就農。  
ここで問題になったのが、それまで住んでいた家をどうするかでした。不動産屋などの広告を見て検討しましたが、最終的には移住・住みかえ支援機構（JTI）を利用することに決めました。  
その理由は、  
①国の保証があること  
②3年ごとに契約の見直しができること  
③JTIの「子育て世代に積極的に家を貸す」という趣旨に賛同したこと  
の3つでした。



広い玄関の奥には、趣のあるテーブルが置かれている。

福井県  
三方上中郡若狭町  
1邸  
一戸建て  
9LDK (160㎡)  
敷地面積 (1000㎡)

撮影/坂下智広



ご主人のお気に入りの場所から見た田園風景。



150本もの梅の木を剪定するのは大変な作業。電動剪定バサミは力強い味方となる。



白ネギに土を寄せる。農作業はいつも二人で行うことが多い。

### イメージとはだいぶ違うけれど やりたかったことを できる環境に感謝している

益はできていません」とおっしゃいます。

目下の課題は、二人で維持するには田畑の面積が広すぎることに、天気などの影響からポイントとなる作業のタイミングを逸してしまうこと、だそうです。

「年金とJ-TIの家賃収入で生活はできますが、農業を続けて、田畑を維持するためにもやっぱり黒字にしたい」と、奥さまはおっしゃいます。

本業のほかにも、草刈りや排水路の掃除、猿・猪・鹿対策用の金網の点検など地域の出役

### 築120年の納屋が 鎮座する重厚な住まい

1さんのお宅は、築約60年。味わい深い木がふんだんに使われた重厚なつくりで、1階・2階合わせて9部屋あります。

インタビューさせていただいた部屋は客間でしたが、普段は畳が傷んでしまうため外して廊下に立っかけているとのこと。いつまでも居たくなるような昔懐かしい香りがする部屋でした。

玄関前の廊下は板敷きになっていますが、昔は大勢の人が来ると畳を敷き、部屋として使ったそうです。

築60年には驚きましたが、もっと驚いたのは裏庭にある納屋。近くにあった昔の小学校の一部を移築して、なんと築120年。明治時代中期の建物です。眺めていると、着物姿の子どもたちが飛び回っている姿が浮かんできます。

現在この広い家には、1さんご夫妻と奥さまのお母さまの3人住まい。「9つも部屋があると掃除がたいへんですね」と言うと、奥さまは「実際に使っているのはせいぜい3部屋ぐらいなんですよね」とおっしゃいました。

納屋の前で作業をする奥さまのお母さま。



立派な瓦が、家の歴史を静かに伝える。



築120年の偉容を誇る納屋(上)。この地区には古くからの農家が多い(下)。



昔懐かしい緑側から見る裏庭の景観がすばらしい。



家のまわりのいろいろなものから四季が感じられる。

### 年金疎開をする すてきな遊居人

さて、就農してから4年目を迎えて、現在の暮らしについてどのようにお考えでしょうか。「妻の実家に移住したので、地域にもすぐに溶け込むことができ、農業についても近所の人たちに親切に教えてもらえてありがたい。思いどおりにいかないことも多くてたいへんだけれども、やりたかったことができている」とご主人。

1さんの家では、1枚30アールの田畑を4枚持つっていて、有機栽培のお米、もち米、長ネギ、大豆、マコモ、レンコンなどをつくるほか、約150本の梅も栽培しています。

見よう見まねではじめた農業も、4年間の経験と先輩たちのアドバイスによって年々本格的になっていきますが、「まだまだ利



三方五湖は「五色の湖」と呼ばれている(上)。若狭三方縄文博物館の太古の森。



また、町内には縄文遺跡や古墳が多数点在。多くの物資や文化が交流した若狭街道には、国の重要伝統的建造物群として熊川宿が選

若狭町は、2005年に三方町と上中町が合併して「三方上中郡若狭町」として誕生。若狭湾国定公園の中心部にある人口約1万7000人のまちです。

定されています。豊かな自然と歴史に恵まれた町には民宿や旅館が120軒以上あり、観光にも力を入れています。

輝きとやさしさに出会えるまち  
水資源が豊富な「若狭町」



<http://info.pref.fukui.jp/rousei/teiju/>

本州日本海側のほぼ中央に位置する福井県は山、海湖などの自然が身近に感じられる土地です。住みやすさ日本一にも選ばれた福井

住みやすさ日本一！  
福井県定住促進総合サイト

県は、定住したいと考えている人たちのために、さまざまなサポート体制を整えています。まずは田舎暮らし体験から、と考えている人には、「ふるさとワークステイ」「エコ・グリーンツーリズム体験ツアー」「農家民宿」「棚田や果樹などのオーナー」という期間も形態も違う4タイプの体験を通して福井県がどんなところなのか、田舎で暮らすとはどういふことなのかを知ることが可能です。



<http://www.city.fukui.lg.jp/d120/seiyu/teiju.html>

福井市の政務調査室で運営するサイト。移住・定住を応援するための次のようなメニューを用意しているほか、田舎と都会を行き来

居住・定住を応援するメニューが豊富  
福井市定住促進ポータルサイト

する「交流居住」についても力を入れています。・農林水産関連：新規就農支援、福井の舎体験、そばづくり体験など。・住宅関連：福井市まちなか住まい支援事業、空家情報バンク、宅地(保留地)分譲、福井市勤労者住宅資金利子補給制度など。・商工労働関連：起業家支援セットメニュー事業、ふくおいしごとネット、ふるさと就職応援団など。自分のテーマに合った記事をご確認ください。



[http://www.turuga.org/yuton/yuton\\_index.html](http://www.turuga.org/yuton/yuton_index.html)

教質の自然や歴史・文化をより多くの人に知ってもらうためのサイト。5つのカテゴリーに分けて、いろいろな「教質体験」

教質を知って、学んで、楽しむ！  
遊教塾(ゆうとんじゅく)

メニューを紹介します。・海遊学部：海釣り、手旗・ロープ結束、地引き綱、ダイビングなど。・地遊学部：街中ウォーキング、米つくり、炭焼き、山登りなど。・食遊学部：特産品加工、かたパン作り、魚のさばき方・干物づくりなど。・時遊学部：歴史散策、街並み散策、祭り参加、昆布かさなど。・社遊学部：教質和紙づくり、エネルギー施設見学、俳句、茶会など。



<http://www.echizen-furusato.jp/index.php>

「体験をさがす」のコーナーでは、陶芸体験、しいたけ収穫と植菌、そば収穫とそば打ち、フレッシュジャム作り、コテージや

越前町の海・山・自然体験予約サイト  
越前ふるさと見つけ隊

やぶぎの家での田舎暮らし体験など、越前町の自然に直に触れられるメニューを用意している。自分に合った田舎体験を探すことができます。また、「体験プラン例」のコーナーでは、田舎暮らし体験プラン、親子で食育体験プラン、夫婦でゆったりプランなど、事務局おすすめの1日体験プランを紹介しています。そのほか、観光施設案内や体験リンク集も充実しています。



三十三間山(標高842メートル)の登山にて。頂上からは三方五湖のうち三方湖、菅湖、水月湖が見える。

年金疎開をする  
すてきな遊居人

●1カ月の生活費

食料費	60,000円
住宅関連費 水道光熱費、家具、家事用品など	50,000円
被服・履物費	10,000円
雑費1 保健医療費、交通通信費、教養娯楽費など	30,000円
雑費2 こづかい、交際費、諸雑費など	50,000円
合計	約20万円

●問い合わせ先

一般社団法人 移住・住みかえ支援機構  
東京都千代田区平河町1-7-20  
平河町辻田ビル5F  
TEL: 03-5211-0757



地域の行事は1年を通して豊富。4月3日の神事にはご主人も参加(右上)。防災訓練の様子(右下)。へしこ作りを近所の人に教わる(左上)。うなぎ取りのイベント(左下)。

作業もあって、余暇はほとんどないようですが、農業者向けのイベントや地域の行事にお二人で参加したり、ウォーキングを楽しむなど、充実した毎日を送っていらっしゃいます。年金疎開世代へのメッセージや、今後の目標をお聞きしたところ、「移住するなら、少しでも自分や家族・親戚に関わりのある土地を選ぶのがいいと思う。そして、まずはそこで信頼されるようになること。また、実家が農家であるなら、ぜひ戻って農業をつづけてほしい」と、お二人は口をそろえます。最後にご主人は、「自分がやりたかった農業を恵まれた環境のなかで実現させてもらっていることに感謝している。できたら80歳までつづけたら」と笑顔でおっしゃいました。